



ビオトープ・ニュース104

発行日 2017/08/20

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部
 事務局：徳島市山城町東傍示 5-281 新弘測量設計㈱内
 事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

■ビオトープ・サロン

生物多様性保全 ～一難去ってまた一難～

昨年 2016 年（093 号）の続編です。野生生物との付き合い方はどうあるべきか。（編集局）

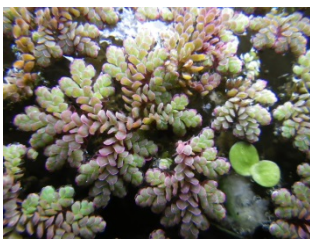
【地域外希少種のアサギが消え、特定外来種アゾラ・クリスタータが増殖中】

浦池は、阿波市指定天然記念物「アサザ（徳島県：絶滅危惧Ⅰ類／環境省：絶滅危惧Ⅱ類）」の生育地で、**県内でも希少な場所**として注目されました。そこに鳴門市指定天然記念物「**オニバス**」が**人為的**に持ち込まれ、在来のアサザの被圧に止まらず、水質悪化と生態系や農業への悪影響が問題になりました。

本紙でも、2009 年、2010 年に取り上げ、昨年 **2016 年（093 号）**には、**経年変化**を紹介しました。そして、この度、昨年にオニバスが消えたことの確認に向いたところ、今度は特定外来種が池面を覆っていました。当然ながら、**アサザは確認できません**でした。

下の写真は、左から順番にアゾラ・クリスタータの接写、池面を覆うアゾラ・クリスタータ、アサザの生育地だった場所にも、浦池より東方へ約 1.5 kmにあるため池もオニバスが消えアゾラ・クリスタータが拡大しつつありました。

オニバスが消えていましたが、駆除対策が成されたのか？…ご存知の方、ぜひ、情報を！



■ビオトープ・サロン

マスメディアからの話題 ～野生と付き合い作法はすみわけること～

鳴門市の蓮田ではコウノトリが、徳島市の城山ではアオサギが、野生との付き合いも様々です。（編集局）

【事の発端は 13 年前、見守った結果が深刻な問題に！？】

遅ればせながらですが、2017 年 4 月 24 日徳島新聞に「アオサギふん害深刻」の記事が目にとまりました。事の発端は **2004 年の記事**にありました。当初は「環境がいい証拠」と見守られ、2008 年の記事では既に「アオサギのふん害深刻」「原生林の一部枯死」の文字が、…2010 年に環境学習教材に取り上げました。

今年の 2 月「吉野川流域生態系ネットワーク推進フォーラム」において、「**コウノトリ・ツルが舞う吉野川流域のまちづくり**」の講演会が開催されました。わが徳島県において、コウノトリの定着やナベツルの分散化への試みが推進されるかもしれません。「コウノトリ・ツルが舞う吉野川流域のまちづくり」への**大いなる期待**とともに、生活環境や農作物への影響なども**理解し容認**する必要がありそうです。何よりも、徳島県民が「**野生と付き合い作法**」をしっかり**習得することが先決**のように思います。「すみわけ」「おりあい」をどうつけるか…考えましょう！

城山で集団営巣するアオサギ。ふんで周辺の木々が枯れる被害が出ている。徳島の徳島中央公園

アオサギふん害深刻
2017 年 4 月 24 日
徳島新聞



環境破壊で野生との距離が近くなる

「専門家は、「市街地の近くにあつて環境がいい証拠だ」と見守っている。(04.03.00)」



自然との共存とは
土地利用のあり方とすみわけを考えること

アオサギのふん害深刻

原生林の一部枯死
日本鳥獣保護法の施行後、徳島市とその周辺に生息するアオサギのふん害が深刻化している。原生林の一部が枯死している。市民の理解と対策が必要。

二年前から、三月～八月には百羽以上の群れ。(080518)

2010. 02. 19

学校版環境SOと環境教育

41

出典：徳島新聞080518(徳島新聞社)

■みんなの“たからもの”

農業の営みが草地のビオトープの代償に！



本紙 078「里地にヒバリが戻ってきた！」では、囀りからの推測と農家からの聴取の紹介でしたが、今回はその証拠写真と言えるお便りです。

【里地にヒバリが戻ってきた！：KKさん 170427】

近所の農家の案内で覗きに行ってみました。話によると「除草剤を散布していて気付いた。」とのことでした。その時は抱卵中でしたがその後はそっと見守っているようで、無事5羽のひなが育っています。

保護色と言いますが、目を凝らさないと雛がどこかわからず踏みつけてしまいそうでした。巣立ち前にはトウモロコシの間を走り回るそうです。

■みんなの“たからもの”

地域の宝が里地からも消えています



本紙 067「街角の凶器、樹木に潜む危険」、082「地域の草木は身近な自然と文化の生き証人！」に続き、伐木の話です。

【神社も巨木に受難が続きます：KKさん 170512】

転ばぬ先の杖…倒れぬ先の伐枝でしょうか？ 見るも無残な姿の巨木、ぶつ切りされた枝が痛々しいです。大きく枝を広げたクスでしたが、今は見る影もありません。

各地で倒木事故の報道が相次ぐ中での措置でしょうか、それとも日照確保のためでしょうか？ 神社には鎮守の森がつきものでしたが、里地にも地域の草木が永続的に生育できる土地を計画的に確保する必要があるようです。

■ビオトープ・セミナー

資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【生態系の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問 104：次の文章中の空欄 (a) ~ (d) に入る最も適切な語句の組み合わせはどれですか。

ある特定の種が環境の中で維持できる最大個体数を「環境収容力(環境容量)」という。個体数は、通常、()によって調節されるため、環境収容力より()値に抑えられている。しかし、例えば、オオカミなどの肉食動物の衰退が著しいわが国においては、シカなどの草食動物の数が自然界の調節をうけなくなるため、環境収容力を()こともある。とはいえ、個体数が増加し続け、食物不足などに直面すると個体数は()する。

- | | | | | |
|----|--------|-------|--------|-------|
| 1. | a. 被食者 | b. 高い | c. 上回る | d. 減少 |
| 2. | a. 被食者 | b. 低い | c. 下回る | d. 増加 |
| 3. | a. 天敵 | b. 高い | c. 下回る | d. 減少 |
| 4. | a. 天敵 | b. 低い | c. 上回る | d. 減少 |
| 5. | a. 天敵 | b. 高い | c. 上回る | d. 増加 |

■前号 103 (施工部門の記述問題) 解説

工業団地造成の伐除根作業に入ったところ、特定外来生物であるオオキンケイギクが、種子をつけた状態で広範囲にわたり存在していることが確認された場合の対処としては、①特定外来生物は、種子、根を含む生きた個体の運搬は禁じられており、防除行為は環境省に対し事前に申請するという、法を理解する。②すきとり物には、種子、根が混入しているため、焼却や土中深くに埋めるなど確実に処分できる業者に処分を依頼することや(オオキンケイギクは多年草である)、運搬に際しては飛散防止の処置をする。③刈取り物の堆肥化や堆肥・表土の場内での使用については、法による規制はないにしろオオキンケイギクが再生防止を確実にする。④堆肥化に際しては、飛散防止措置を施すとともに、種子が発酵熱で死滅するよう管理する。⑤種子が混入する表土は、場内の深い位置での埋め立てや盛土に使用し、植栽客土などとして地表面での使用は禁止する。これらを理解し、適切な実施が求められます。

2級はどなたでも受験できます。四国の試験会場は徳島でしたが、受験者の減少に伴い継続が危うい状況です。**毎年度の受験案内にご注意**ください。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集局
 【ご意見は E-mail: bio-net@ma.pikara.ne.jp へ】 【バックナンバーは URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com> から】